



2022年11月11日

各位

会社名 株式会社 T O R I C O  
代表者名 代表取締役社長 安藤 拓郎  
(コード番号：7138 東証グロース市場)  
問合せ先 上級執行役員管理部長 中道 智宏  
(TEL. 03-6261-4346)

## 2023年3月期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2022年5月12日に公表いたしました、2023年3月期（2022年4月1日～2023年3月31日）の業績予想につきまして、下記の通り修正しましたのでお知らせいたします。

### 1. 2023年3月期通期業績予想数値の修正 (2022年4月1日～2023年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 6,147	百万円 340	百万円 347	百万円 233	円 銭 190.12
今回修正予想(B)	5,398	167	168	115	92.87
増減額(B-A)	△749	△173	△179	△118	—
増減率(%)	△12.2	△50.9	△51.6	△50.6	—
(参考)前期実績 (2022年3月期)	5,390	199	207	152	241.21

### 2. 修正の理由

当社を取り巻く事業環境としましては、新型コロナウイルス感染症の落ち着きと共に行動制限も徐々に緩和された事で消費行動の外出再開への反動が強まっており、相対的に巣ごもり需要が沈静化した事で、出版流通業界全体において売上高が前年比を下回る状況となっております。公益社団法人全国出版協会・出版科学研究所が発刊している出版月報9月号によると、当第2四半期の連結累計期間にあたる2022年4月～9月の書籍雑誌推定販売金額は、前年同期比6.4%減となっております。

特に当社が属する紙コミック市場については、同出版月報8月号・9月号によると、紙コミックスの推定販売金額が直近8月で前年同月比7%減、9月で同22%減となっており、直近で書籍全体の販売推移以上の減少がみられております。当第2四半期の連結累計期間においては、マンガを原作とする作品のアニメ・映画化等によるヒット作品がいくつか発生しているものの、前年同期に発生した「呪術廻戦」「東京卍リベンジャーズ」等と比較して数、規模共に小さかった事も、巣ごもり需要の沈静化と共に、紙コミック市場の減速の要因になったと考えております。

そのような環境の中で、主力のECサービスについては、当第2四半期の連結累計期間を通してのECサイトに訪れるユーザー数は10.3百万人（計画値11.7百万人、前年同四半期比12.7%増）と前

年からの拡大は図れたものの予算値には未達となりました。一方で、購買率については1.51%（計画値1.96%、前年同四半期比28.3%減）とより低下が著しく、その結果当第2四半期の連結累計期間において業績予想に対する売上高達成率は81.1%となり、期初の想定を下回りました。

また当社グループが成長サービスとして位置付けるイベントサービスについては、当第2四半期の連結累計期間におきましては、2022年3月に新規オープンした名古屋店舗を含む国内4店舗のイベント開催及び、ECの活用によるイベントグッズ販売の両方が大きく拡大しましたが（前年同期比では139.4%）、同サービスの売上高も予算比85.8%と予算を下回る結果となりました。

当第3四半期以降は、ECサービスにおいては年末商戦需要やヒット作品発生への期待があり、イベントサービスにおいても、消費行動の外出再開の動きが国内外からの来店需要の増加、特に海外からのインバウンド需要の増加が期待されるものの、上半期で生じた各サービスにおける売上高の下振れをオフセットできる程までの影響は现阶段で見込み難いことから、通期業績予想を修正する事と致しました。

また利益につきましても、上記の理由による売上高の減少により、変動費用の減少があったものの、イベントサービスの店舗拡大や開発活動に必要な人的投資や設備投資を予定通り実行した事で、営業利益、経常利益、当期純利益の全てにおいて、通期予想に対する進捗を大きく下回る状況となったため、通期業績予想を修正する事と致しました。

（業績予想について）

上記の予想数値は、本資料発表日現在において、入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は今後様々な要因によって上記予想値と異なる可能性があります。

以 上